



〒028-6193
岩手県二戸市堀野字大川原毛 38 番地 2
TEL 0195(23)2191
FAX 0195(23)2834
URL <http://www.ninohe-hp.net/>

編集発行
岩手県立二戸病院地域連携委員会広報担当



「病院から医師が消える時」

院長 佐藤元昭

こんにちは。しばらくぶりですね。

さて、勤務医不足に歯止めがかかりません。原因は、国の医療費抑制策や受け皿をきちんとしないで始まった臨床研修医制度、医療事故にからんだ医師叩きによるものです。二戸地域医療懇談会で二戸病院はじめこの地域の医師が足りなく、医師が過重労働で疲弊し、危険な状態だという報告をしたところ、初めてそんなに大変だということを知ったという地域住民の方が大半でした。病院があって当たり前、そこに医師がいるのが当たり前と思っている人がほとんどです。しかし、それは幻想です。病院から医師がいなくなるという現実がそこまで来ています。住民が現実を直視し、自分達の医療は自分達で守る、当事者意識を持って地域医療を大事にしないと夕張総合病院、銚子市立総合病院のように二戸病院も医師不足などで無くなってしまおうでしょう。

ところで、どうして住民の方々は医師不足を実感できなかったのでしょうか。それは、医師はじめ医療者の献身的・犠牲的働きがあるからなのです。しかし、もう犠牲的働きが限界を超えてしまいました。今は医療崩壊の危機どころではなく、医療は一部はつきりと崩壊しているのです。このことを意識しなければ医療に不満だけを感じると思いません。

病院勤務医の不満は何かというと、軽症な外来に時間を取られ、入院患者や救急・重症患者を診る時間が取れな

いことです。病院の役目は何といても入院対応です。看護師も入院病棟に約8割、外来には2割程度しか配置していません。外来なら診療所でもやっていますよね。もし、あなたが入院した時、外来診療が多忙で主治医が回診に来なかったらどうですか。外来が遅くまでかかり、疲れたような医師に診てもらいたいですか。医師も本当は入院や重症患者に十分な時間を取りたいのです。しかし、外来のためそれができず困っているのです。ことに、何となく大きな病院が良いとか、軽症やかかりつけ医からの紹介状のない外来患者さんが多く来院するため、重症や救急医療に支障をきたしているのです。

また、病院はチーム医療です。医師一人なら診療所の独立した医師のほうが能力は上だと思えます。よって、もし病状が安定している時は、診療所での治療のほうがいつも同じ先生に診てもらえて良いのです。この地域の診療所の先生方は事情をよく知っていて、当院との連携はガッチリしているのでご安心下さい。かかりつけ医を持っている住民の方は医療に対する満足度が高く、持っていない人はすぐ病院に駆けつけ、待たされたりして文句が多くなりがちで満足度が低いと言われています。何かあったらすぐ大きな病院という発想ではなく、まずはかかりつけ医の先生を受診し必要なら当院に紹介してもらおうのが賢い病院の使い方です。

次に問題なのが救急医療です。夜間、土日祝日の時間

外の救急といわれる患者の大半、およそ80%が軽症です。いわゆるコンビニ受診といわれるものです。本来の救急は20%くらいで入院の必要な重症患者は10%です。そして、この軽症患者からの苦情やクレームが最も多いのです。やれ、すぐ診てくれない、急患室で待たされた、薬をくれなかった(本当は薬の必要がなかった)などです。このことが勤務医を疲弊させ、やる気を削いでいるのです。ちなみに本当の救急患者からのクレームはまずありません。

3番目に医療訴訟の増加があります。医療には限界があり、不完全です。しかし、何かあればすぐ事故だ、ミスだといってしっかり検証もせず医師はじめ医療関係者を非難する風潮がまん延しています。どんな名医が行なっても治療ですべて治るわけではないのです。この当たり前のことが理解されないため、合併症が起きたり、死亡した場合に「なぜ、こうなった。ミスだ」言われ、医師が逮捕されたりするという先進国では考えられない事態が起きています。事故がすべてミスではないのです。しかし、その医療者の声を聞いてもらえないという現実があります。医療の限界と不確実性という認識を住民の方や患者さんをはじめ一般の方々を持っていないことが問題です。

さらに、要求ばかりして、ちょっとしたことに厳しい非難を浴びせるというような、寛容な気持ちのない(いわゆるキレル)住民や患者が増えています。医療現場がとげとげしくなっています。地域医療の当事者は自分達であるという意識を持たず、病院任せにし、批判はするが自らは何もしないで、起きている問題についても本気で考えない人達。このような人達のため、多くの医療者が緊張とストレスにさらされているのです。そんな目にあっている医療者にやさ

しい笑顔を求めるということがいかに大変なことか。医療現場に敬意を払わない行動をし、自分の都合しか考えない住民のいる地域から医師は消えていくのです。

自治体病院は「公」の病院です。そのため、住民が主人公だ、俺たちの税金で養っているのだという感覚があるのではないのでしょうか。そのため、病院を自分勝手に利用し、特別扱いを要求して医療スタッフに高圧的態度をとるという住民がいて、職員のやる気をなくさせているという事例があります。NHK教育テレビで、ある町の議員が病院受診した際、多忙な看護師に自分の孫(病人ではない)の面倒をみると指示したそうです。このような住民代表の議員発の医療崩壊があるという事実を紹介していました。

医師は地域の共有財産です。住民が上手に使わなければ医師は病院から消えていきます。医師を大事にしない、共有財産をただただ使うだけで、敬意も示さない所に来る医師などいません。それどころか、あの地域は共感できない文句ばかり多く、自分達の医療をどうするかといったことを何も考えず、ないものねだりの要求ばかりする所だというレッテルを貼られたら、もうどうにもなりません。

厳しいことを書きました。繰り返しますが、地域医療は住民自身がしっかり当事者意識を持たないと潰れます。我々医療者も住民や患者の声を真摯に受け止め努力しますが、あまりに身勝手に共感できない要求には応えられません。住民も大変だと思いますが、医師もまたそれ以上に大変なのです。少ない医師で限界を超えて、労働基準法違反のような状態で診療に当たっているという現実をご理解下さい。

8月の二戸地域休日当番医

月日	当番医院	住所	TEL
8月2日(日)	よこもり眼科クリニック(眼科)	二戸市堀野字長瀬	0195-22-2230
8月9日(日)	むらかみ医院いたみのクリニック(外科)	軽米町大字上館	0195-48-1500
8月16日(日)	千葉耳鼻咽喉科医院(耳鼻咽喉科)	二戸市福岡字八幡下	0195-23-2009
8月23日(日)	菅整形外科皮膚科クリニック(皮膚科)	二戸市石切所字川原	0195-23-7311
8月30日(日)	おりそ内科循環器クリニック(内科)	二戸市福岡字長嶺	0195-22-2251